

行政視察等報告書

令和7年10月31日

米子市議会議長様

(会派の場合)

会派名 自由創政

代表者氏名 戸田 隆次 (印)

提出者氏名 岩崎 康朗 (印)

(議員の場合)

議員名



下記のとおり報告します。

記

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査	<input checked="" type="checkbox"/> 行政視察	<input type="checkbox"/> 要請・陳情活動
	<input type="checkbox"/> 研修会への参加	<input type="checkbox"/> 会議への参加	
参加者	戸田 隆次、岩崎 康朗、田村 謙介、西野 太一		
期日	令和7年10月20日から 令和7年10月22日まで		
〔視察等年月日・場所・内容〕			
令和7年10月20日 盛岡市役所 「外国人観光客の誘致促進」について			
令和7年10月21日 山形市役所 「居心地がよく歩きたくなるまちなかづくりプロジェクト」について			
令和7年10月21日 山形県庁 「山形新幹線」について			
※田村議員は公務により、21日午後から視察参加			
令和7年10月22日 南陽市役所 「おきタク」について			
〔視察等の目的〕 〔視察等要旨〕			
〔視察等(説明)要旨に対する考え方、及び本市の事務事業に参考となる点〕			
※ 別紙のとおり			
経費	旅費	336,196円	
	タクシー代	5,200円	
	土産代	9,958円	
	合計	351,354円	

行政視察行程（会派：自由創政3名）

月 日	行 程	宿 泊 先
10/20 (月)	<p>7:20 8:45 9:24 9:48 9:56 10:09 10:45 13:01 連結見学</p> <p>米子空港====羽田空港=====品川=====東京=====盛岡=====盛岡市役所</p> <p>ANA382 便 京急空港線急行印旛日本医大行 JR 山手線内回り東京・上野方面 JR 新幹線はやぶさ 17号 <b>送迎あり</b>※西口2階ロータリー13:45分</p> <p><b>盛岡市行政視察</b> 午後2時から午後3時30分まで <b>【議会事務局】</b> ☎019-613-8315 (佐々木様)</p> <p><b>【調査項目】</b> 外国人観光客の誘客促進（オーバーツーリズムによる現状と課題）について</p> <p>15:51 16:29 16:44 17:10 17:35 18:43</p> <p>盛岡市役所====盛岡=====仙台=====福島=====山形=====ホテル</p> <p><b>送迎</b> JR 新幹線はやぶさ 28号東京行 JR 新幹線やまびこ 150号東京行 JR 新幹線つばさ 145号新庄行 西口徒歩5分</p>	<p>昼食：盛岡駅周辺</p> <p><b>【ホテル】</b> ホテルルートイン山形駅前 ☎050-1809-9941</p> 
10/21 (火)	<p>ホテル=====山形県庁</p> <p>タクシー12分 (4.4km)</p> <p><b>山形県行政視察</b> 午前9時30分から午前10時30分まで <b>※視察時間は60分間</b></p> <p><b>【議会事務局】</b> ☎023-630-2835 (石沢様)</p> <p><b>【調査項目】</b> 山形新幹線について <b>【場所】</b> 議事堂北棟3階</p> <p><b>【担当課】</b> みらい企画部 総合交通政策課 米沢トンネル（仮称）事業化・整備等推進室</p> <p>県庁=====よりみち食堂 (11:30 OPEN) =====山形市役所</p> <p>タクシー8分 (3.3km) <b>※12分お迎え山形市送迎</b></p> <p><b>山形市行政視察</b> 午後1時30分から午後3時まで <b>【議会事務局】</b> ☎023-642-8404 (岩出様)</p> <p><b>【調査項目】</b> 居心地がよく歩きたくなるまちづくり事業について</p> <p>市役所=====ホテル</p> <p><b>山形市送迎</b></p>	<p>昼食：よりみち食堂</p> <p><b>【タクシー】</b> ・観光タクシー ☎02-3622-7288 ・山形タクシー ☎02-3622-4561 ・山交ハイヤー ☎02-3681-1515</p> <p><b>【ホテル】</b> ホテルルートイン山形駅前 ☎050-1809-9941</p>

10 / 22 (水)	8:16                      8:49 ホテル====山形====赤湯====南陽市役所 徒歩5分   JR 奥羽本線 米沢行   タクシー3分 (1 km)	昼食: 赤湯駅付近
	<b>南陽市行政視察</b> 午前9時30分から午前11時まで <b>【議会事務局】 ☎0238-40-8445 (そだ様)</b> <b>【調査項目】</b> おきタクについて	<b>【タクシー】</b> ・宮内南陽 ☎02-3847-3010
	13:27                      15:48 16:07                      16:14 16:23                      16:30 16:34                      16:45 18:10 南陽市役所 === 赤湯 ===== 東京 ===== 品川 ===== 京急蒲田 ===== 羽田空港 タクシー3分 (1 km)   JR 新幹線つばさ 142号東京行   JR 東海道本線平塚行   京急本線快特三崎口行   京急空港線羽田空港行 19:30 ===== 米子空港 ANA387 便	・赤湯観光 ☎02-3843-2140 

旅費計算表

令和7年10月20日 ~ 令和7年10月22日 (2泊3日)

月 日	区間	鉄道路線名	区 間 キ ロ 数	目的地まで のキロ数	運 賃	グリー ン	急 行 料 金		宿 泊 手 当 宿 泊 費		
							特 別	新 幹 線	(朝食付の額)	山形県	
10/20	米子空港 ~ 羽田空港	ANA	776.0		29,420				1,600円	14,000円	
(水)	羽田空港 ~ 品川	京急	14.5		327				1,600	9,000	
	品川 ~ 東京	JR	6.8		8,580						
	東京 ~ 盛岡	JR	535.3					6,430			
	(視察)										
	盛岡 ~ 仙台	JR	183.5		6,050						
	仙台 ~ 福島	JR	79.0					4,270			
	福島 ~ 山形	JR	87.1					1,660			
10/21	(視察)								1,600	9,000	
(木)											
10/22	山形 ~ 赤湯	JR	31.0		6,050						
(金)	(視察)										
	赤湯 ~ 東京	JR	328.9					5,400			
	東京 ~ 浜松町	JR	3.1								
	浜松町 ~ 羽田空港	東京 モノレール	17.0		519						
	羽田空港 ~ 米子空港	ANA	776.0		往復						
計	議員旅費			89,906	50,946	0	0	17,760	3,200	18,000	0
	随行旅費			0							

出席議員 戸田議員、岩崎議員、西野議員

議員旅費 89,906 × 3名 = 269,718 円  
 土産代 9,958 9,958 円  
 取り扱手数料 550 円  
 タクシー代 5,200 5,200 円

①合計 285,426 円

自宅～米子空港までの自家用車代 19km×25円×2= 950 円(戸田議員:片道19km)  
 自宅～米子空港までの自家用車代 13km×25円×2= 650 円(岩崎議員:片道13km)  
 自宅～米子空港までの自家用車代 22km×25円×2= 1100 円(西野議員:片道22km)

②合計 2700 円

合計①+②= 288,126 円

① 288,126 + ② 63,228 = 351,354

自由創政 会派視察  
 岩手県盛岡市、山形県、山形県山形市、南陽市

旅費計算表

令和7年10月20日 ~ 令和7年10月22日 (2泊3日)

山形県山形市、南陽市  
自由創政 会派視察

月 日	区 間	鉄道路線 名	区 間 キ ロ 数	目的地まで のキロ数	運 賃	グリー ン	急 行 料 金		宿 泊 手 当 (朝食付の額)	宿 泊 費	
							特 別	新 幹 線		山形県	
10/21	広島空港 ~ 羽田空港	JAL	790.0		13,000				1,600円	14,000円	
(木)	羽田空港 ~ 浜松町	東京モノレール	17.0		519				1,600	9,000	
	浜松町 ~ 東京	JR	3.1		6,050						
	東京 ~ 山形	JR	359.9					5,400			
10/22	山形 ~ 赤湯	JR	31.0		6,050						
(金)	(視察)										
	赤湯 ~ 東京	JR	328.9					5,400			
	東京 ~ 浜松町	JR	3.1								
	浜松町 ~ 羽田空港	東京モノレール	17.0		519						
	羽田空港 ~ 米子空港	ANA	776.0		13,970						
計	議員旅費			61,508	40,108	0	0	10,800	1,600	9,000	0
	随行旅費			0							

出席議員 田村議員

議員旅費 61,508 × 1名 = 61,508 円  
 ホテルから広島空港までのバス代 1,500 1,500 円  
 バス代(山形市内) 220 220 円  
 合計 63,228 円

(B)

〔視察年月日・場所・内容〕

視察日時: 10月20日(月) 14:00~15:30

視察先: 盛岡市役所

視察内容:

外国人観光客の誘致促進(オーバーツーリズムによる現状と課題)について

〔視察等の目的〕

米子市では、米子鬼太郎空港国際線〔ソウル便、香港便、台北便〕就航、境夢みなとターミナルへのクルーズ船寄港により当地を訪れる外国人旅行者が増加している。今後、米子市においてもインバウンド需要が多くなると予想されることから、米ニューヨークタイムズ紙「2023年に行くべき世界の52カ所」に選定された盛岡市の外国人観光客の誘致促進(オーバーツーリズムによる現状と課題)の取組みを参考とさせていただき、今後の議会活動に活かす目的である。

〔視察等要旨〕

●第5期盛岡市観光推進計画の概要

少子高齢・人口減少社会が進む中、交流・関係人口拡大は地域活性化に不可欠で、人々のライフスタイル・価値観が変化する等、旅行形態や観光客のさらに多様化している。米ニューヨークタイムズ紙「2023年に行くべき世界の52カ所」に選定された効果を持続・発展していくための取組み等、観光施策を総合的かつ効果的に推進する目的による観光推進計画が策定された。

●基本方針及び計画の目標

①基本方針「世界を舞台に輝き続ける観光のまち 盛岡」

②計画目標 5年後年間観光客入込数550万人、年間宿泊観光客数130万人、年間外国人宿泊観光客数15万人

●基本施策と重点戦略

①持続可能な観光地域づくり

- ・観光産業の「稼ぐ力」向上(最重点戦略)
- ・交流人口、関係人口の拡大
- ・観光人材の育成、確保

## ②選ばれる観光地域づくり

- ・効果的な情報発信と戦略的なプロモーション（最重点戦略）
- ・盛岡ファン拡大とリピーター化推進
- ・まちなか観光の推進

## ③広域観光の推進

- ・広域連携による誘致活動の推進（最重点戦略）
- ・高付加価値旅行者の誘致促進
- ・都市間交流の促進

## ④国際観光の推進

- ・インバウンド誘致促進（最重点戦略）
- ・インバウンド受入環境の整備
- ・感慨との相互交流の促進

〔視察等（説明）要旨に対する考え方及び本市の事務事業に参考となる点〕

盛岡市の外国人観光客の中心は台湾、中国、タイからの集客であるが、近年米ニューヨークタイムズ紙「2023年に行くべき世界の52カ所」に選定された影響によりアメリカからの集客が増加している。

外国人観光者からは盛岡市も秋田市も仙台市も同じ地域の観光地として考えていることから、広域連携による誘致活動の推進は不可避である。そのために東北の祭りを基本コンセプトとした6大観光拠点都市の連携により、ニューヨーク市「ジャパンビレッジ夏祭り」での観光プロモーション実施やタイ・バンコク日本博2024への出展、及びツーリズム・エキスポジャパン2024への出展等積極的に海外への売込戦略が実施された。

大変参考となる点は持続可能で今後も選ばれ続ける観光地域づくりのための、効果的な情報発信と戦略的なプロモーション（最重点戦略）が素晴らしいと感じた。外国人観光客から見れば、東北は同じ地域の観光地とみられている点であり、米子市も特に中海・宍道湖・大山圏域を一つの観光地として観光戦略及びインバウンド戦略を組みなおす必要を強く感じた。

山形市「居心地がよく歩きたくなるまちなかづくりプロジェクト」について

【視察等年月日・場所・内容】

令和7年10月21日

山形市役所

【視察等の目的】

米子市では、まちなかを「車中心」から「公共交通と歩行者中心」の、歩いて楽しいが実感できる空間へと転換し、周辺エリアの活性化につなげていく『歩いて楽しいまちづくり』に取り組んでおり、歩行空間の整備に加え、駅前通りの一部区間の車道空間を活用し、飲食・物販・ワークショップ等のプログラムやデッキ・人工芝等の設置による居心地のよい空間づくりを行う実証実験が行われ、その結果を踏まえ更に対象区間、期間を増やした実証実験が行われることになっている。このウォーカブル推進事業については、その事業効果に様々な意見があることから、ウォーカブル先進地である山形市を訪問し、標題の件について様々に説明いただいた。

【視察等要旨】

本事業を所管する「まちづくり政策部」「商工観光部・ブランド戦略課」から「居心地よい空間づくり」「粋七エリア整備事業」「山形市中心市街地のまちづくり」について説明を受けた。

「居心地よい空間づくり」として、まちなかに点在する空地によるスポンジ化を解消すべく、老朽建物の整備改善や、歩行者にくつろいでもらえる滞留空間を作ることで、イベント集客によらない賑わい創出を実践されていた。「すずらん商店街」における歩行者天国実施と、可動式広場用家具 COMM（ベンチ・テーブル）設置による歩道のテラス化は、飲食店からのテイクアウトが増え、屋外で音楽やワークショップを楽しむ人が増えたことで、多いところで売り上げが実施前より 2.8 倍増えたお店もあったとのことであった。

「粋七エリア整備事業」については、中心市街地の七日町地区において、都市計画道路整備と併せた沿道整備街路事業による、区画整理事業を展開され、中でも「世界かんがい施設遺産」に登録された「御殿堰」を復元整備することで風情ある景観、小径と広場の整備により回遊性と滞在性の向上を図っておられた。

「山形市中心市街地のまちづくり」については、平成 20 年 11 月から始まった「山形市中心市街地活性化基本計画」の 3 期目が現在進行中であり、歴史・文化資源の魅力向上による賑わいづくり、エリアマネジメントによるまちの魅力向上、街中への居住推進を基本計画に 91 事業を展開されていた。具体的には「市街地の整備改善事業」「住宅供給事業」「都市福利施設整備事業」「経済活力向上のための事業」「各事業の付帯事業」(要約)に分かれて、部局横断的に取り組んでいた。推進体制として、山形市中心市街地活性化戦略本部と、金融機関、民間事業者から構成される「山形エリアマネジメント協議会」の協働で行われていた。現在、4 期目に向けた計画策定に入っており、進捗状況のチェックや更なる改善を図るとのことであった。

【視察等（説明）要旨に対する考え方、及び本市の事務事業に参考となる点】

今回の視察で、部局横断的に「道路を人優先の場に取り戻す」という山形市の熱い想いを聞くことができた。また多くの民間事業者や市民の協力、車中心から歩いて移動するという意識の変化、ゾーンニングをいかに推進してきたのか、多くのご苦労を知ることができた。ウォーカブル推進事業が、単なる歩行空間整備だけで成就するものではなく、市民ニーズも取り入れた協働でなければならないと感じた。公費をかけて歩行空間を広げ、テラスを設置しても市民に浸透せず、誰も集わなければ全く無意味なものになる可能性も示唆していただいた。米子市が実証実験を進める駅前 3 車線化事業についても、市民

の合意形成が必要であり、より慎重な対応が必要と思われる。他にも彫刻ロードや城下町エリア、湊山公園や新たに整備される米子城跡三の丸広場などをフル活用することで、ただ歩くことを推奨するだけでなく、健康寿命延伸や民生費圧縮なども見据えた「歩いて楽しいまち米子」を目指すべきだと感じた視察であった。

〔視察等年月日・場所・内容〕

日時 R7 10月21日

場所 山形県庁 山形県みらい企画創造部 総合交通政策課

内容 山形新幹線の現状と今後の方向性について

〔視察等の目的〕

中海・宍道湖・大山圏域には、昭和48年に決定された、全国新幹線鉄道整備法に基づく基本計画路線、「中国横断新幹線（伯備新幹線）」と「山陰新幹線」の2つ存在します。

米子市議会議員連盟で2024年、国に対し新幹線の早期実現に向けた要望書を提出いたしました。

どちらの路線になっても米子市を走るの、関連自治体の議会として、フル規格新幹線と新在直通方式（ミニ新幹線）の比較や、ミニ新幹線導入効果など把握する必要があり山形県庁に出向きご教授いただきました。

〔視察等要旨〕

・山形市への移動は、実際に山形新幹線に乗り、乗り心地、大きさ、速度、線路幅など確認できた。

・昭和60年に「第7次山形県総合開発計画」が策定され、10年間もかからないスピードで平成4年に山形新幹線開業された。その要因は在来線を活用した「ミニ新幹線」導入によるもの。

・開業してからは、首都圏から山形県への鉄道での流動がおよそ30%増加している。

・沿線で企業誘致が進み、裾の広い技術が集積。

・首都圏との従来が容易になり、優秀な人材を招くことが可能になった。

	山形新幹線（ミニ新幹線）	フル規格新幹線
位置づけ	在来線の線路幅を広げたものであり、あくまで「在来線」	「全国新幹線鉄道整備法」に基づき整備された新幹線。
速達性	最高速度 130km 在来線を活用した線路	最高速度 200km 以上 直線的な線形で、線路内に人や動物等が入れない構造により高速可能
安全・安定性	在来線を活用した線路であることから、自然条件等の影響による運休・遅延が多い	災害に強い構造（高架・立体交差）が備わっており、輸送障害が非常に少ない。

・今後は、ミニ新幹線の課題である在来線を使用した線路を解消するため、23kmの区間をトンネルにする「米沢トンネル」整備計画（事業費2,300億円、工期19年間）を進めて行く。

〔視察等（説明）要旨に対する考え方及び本市の事務事業に参考となる点〕

中国横断新幹線（伯備新幹線）では在来線を活用したミニ新幹線の計画もあるが、山形新幹線の現状を学び、工期の短縮化や東京から乗り換え無しで、山形に行けるようになった利点はあるが、最高時速 130km までしか出せない現状もあり、新たな長い直線的なトンネル整備が必要である。一方フル規格新幹線は、最高速度 200km 以上で安全・安定性も兼ね備えているが、工期や事業費が現実的では無い。

それら学んだ事を、伯備新幹線・山陰新幹線整備促進米子市議会議員連盟の活動に活かしていきたいと思います。

〔視察年月日・場所・内容〕

令和7年10月22日(水)

山形県南陽市

「おきタク」について

〔視察等の目的〕

買い物難民・交通難民の救済対応として、おきタクという制度を導入し、公共交通の充実を図っている現状を把握するため。

〔視察等要旨〕

世論においては人口減少高齢化が顕著である昨今、交通難民・買い物難民が急増している状況下である。南陽市においてもそれらの対応は急務であったため、おきタクの公共交通を整備したとの事である。おきタクとは、地域住民がタクシーをワンコイン(500円)で利用できる公共交通サービスである。費用負担の分担については、運賃500円が50万円・住民負担が50万円・市の補助金が200万円「三方よし」のバランスを実現している。地域対象住民全住戸から一律200円を集めており、事業のすそ野を広く支えている。

免許返納について、事業導入前は少なかったが、導入後は移動手段が確保されたことにより、高齢者が安心して免許返納を行える環境が整ったとの事である。

今後の課題について、利用増加に伴うコスト上昇が懸念材料となっています。今後、追加の住民負担や行政補助、更に企業や寄付を活用した資金調達スキームの検討が求められると史料する。

現在、沖郷地区地域公共交通を設立され、沖郷地区のみ地域公共交通(おきタク)を実施されているが、今後、高齢化・生活パターンの変化に対応しつつ、サービスエリアや運行時間の調整など、利便性を維持・向上させる継続的な対応が求められるとの事である。

〔視察等(説明)要旨に対する考え方及び本市の事務事業に参考となる点〕

本市においても、人口減少高齢化が顕著である。路線バスにおいても減便化が進捗されており、また路線バスに対する本市の補助負担は増加の一途を辿っており、公共交通の見直しが急務と思考する。高齢化・免許返納による交通難民・買い物難民が急増している中、本市においてもコミュニティバスを弓浜地区及び南部箕蚊屋地区に運行させているが、バス停までの手段が困難との意見がある。

南陽市の「おきタク」については各戸～目的地まで直接届けるタクシーであり、高齢者にとっては最適な交通手段と判断する。只、途中の待合は不可との事であり運用については、十分な検討が必要である。費用の分担について地元負担・県市の補助・本人負担の「三方よし」であり、事業のすそ野を広く支えており、素晴らしい事業と感じた。

住民サービスの向上・高齢者の交通・買い物対策について、南陽市の「おきタク」を本市に導入すべく、米子市当局に対し提言したいと考える。